



# ただの失敗・生きる失敗

数年前、卒業生に招かれて中学校の演奏会に行った時の話です。

その日行われたのは、弦楽部によるソロコンサートでした。

行ってびっくりしたのは、新入部員の「顔ぶれ」です。

なんと、元渡辺学級から10人ものメンバーが入っています。

小学校からもともとオーケストラをやっていた子もいますが、中学校から新たに楽器を始めた子たちも結構数いました。

バイオリンを習い始めて、わずか2か月でソロコンサートの舞台に立つ。

これは、ただ事ではありません。

緊張で顔をこわばらせ、震える手を一所懸命に制して演奏に臨む卒業生たちの姿がありました。

中には、大きな失敗をしてしまっただけで肩を震わせながら退場する子も。(その後ステージ裏で大泣きしていたと聞きました。)

この日まで、きつといっぱい練習したのでしょう。

だからこそ、自分の失敗が悔しくて悔しくてたまらなかった。

後ろ姿が、そのことをはっきり物語っているようでした。

けれど、こうした「失敗」は大切な経験です。

むしろ、本気で向かっていったからこそその涙だといえるでしょう。

繰り返しますが、教室では次のことを伝えています。

「失敗は宝です。」

「間違っただけの答えを消すというのは、宝物をドブに捨てるのと同じ事です。」

「何度も×をもらって、そうやって人は賢くなっていくんです。」

これらを言い続けて、およそ9か月がたとうとしています。

そろそろ、“次なる段階”のことを伝えようと思っていたところです。

それは、失敗にも「種類がある」ということです。

よく、「失敗は成功のもと」と聞きます。

間違い、失敗した人を勇気づける言葉として使われています。

しかし、失敗ならどんな失敗でもいいかということ、それは違います。

ちょっとイメージしてみてください。（下の話は私が適当に作りました。）

例えば、よく通る道の途中に大きな木が生えていたとします。

枝が歩道にまで伸びてきていて、歩行者の通行を妨げています。

あなたは、その木の枝に何度か頭をぶつけたことがありました。

一度目は、友達と話していてよく前を見ていなくて。

二度目は、考え事をしながらボーっとしていて。

三度目は、本を読みながら歩いている時に。

その度に、頭にはかすり傷なりたんこぶなりができました。

イテテと感じながらも、特にあなたは何をするでもなく日常を過ごしていました。

「またやっちゃったよ」なんてことを思いながら。

そんなある日、あなたはまたしても木の枝に頭をぶつけました。

前と同じように、友だちとふざけじゃれあいながら話をしていたためです。

この時は当たり所が悪く、木の枝が刺さって血が出ました。

これに懲りたあなたは、その道を通るのをやめ、別の遠回りの通学路を通ることにしました。

さて、この4度目の枝との激突は、価値のある「失敗」なのでしょうか。

この時にかける言葉として、「失敗は成功のもと」は適切なのでしょうか。

答えは、否です。

この失敗に価値があるかと問われて、頷く人はほとんどいないでしょう。

失敗には、大きく2種類あります。

それは、「生きる失敗」と「ただの失敗」です。この「生きる失敗」こそが、宝であり自分の成長におけるチャンスだといえます。

では、生きる失敗かどうか、つまり失敗の価値を決定するのはなにか。

それは、その失敗を経験したときの「心持ち」と、その後の「行動」です。

私の大好きな漫画「宇宙兄弟」に、そのカギとなるシーンがありました。

(読んだことがある人はいるかな?)

失敗の「よさ」「価値」について、談笑している場面でのことです。  
主人公は、次のように言いました。

本気でやった場合に限るよ。  
本気の失敗には価値がある。

初めて読んだときは、しばらくそのページで手が止まりました。  
心の底から、「その通りだ」と唸ってしまったからです。  
失敗を経験したときの「心持ち」。  
それは、熱意とも言い換えられます。  
先の、演奏会における卒業生がいい例です。  
一所懸命練習を続けてきた曲。  
何とか、本番成功させたいと強く思って練習を繰り返してきた。  
しかし、その思い通りにはいかず、失敗してしまった。  
こういう失敗こそが、「本気の失敗」です。  
本気でぶつかったからこそ、悔しいし、涙も出るのです。  
何にも考えずに枝にぶつかり続けた「あなた」とは、まるで違います。  
そして、もう一つ。  
「生きる失敗」か否かを分けるのは、その後の「行動」です。  
例えば、枝にぶつかった後にできることは、いっぱいありました。  
前をきちんと見て歩こうと心がける。  
枝の近くにきたときは、姿勢を低くして通り抜ける。  
そもそも出ている枝が危ないから、枝打ちをする。  
歩きながら本は読まない。  
やろうと思えば、いくらでも失敗を生かす方法は見つかります。  
しかし、「あなた」はそれをせず、枝の脅威から「逃げた」のでした。  
昔の人は、こう言いました。

過ちて改めざる これを過ちといふ

今の言い方に直せば、こうなります。

「間違っ直さない。これが本当の『間違い』である。」  
失敗の経験は、誰しものがするものです。

それを、「生きる失敗」にするのか「ただの失敗」にするのか。

それは、全て自分自身の「心」が決め、その後の「行動」が決めます。

少し厳しい話になるかもしれませんが、「失敗したなあ」「間違っただなあ」と感じた時、それが「生きる失敗」なのかどうか、あるいはどうやったら「生きる失敗」にできるのかどうかを考えてほしいと思っています。

少し、具体的に考えてみましょう。

クラスでは、ノートに何かを書く時は下敷きを敷く事になっています。

整った字を書くための環境を整えることもそうですが、もっと大切な目的は「学習の準備を自分で済ませる力」を身に着けることにあります。

ごくごく些細なことですが、こうした一つ一つのことをおろそかにしてでは、「準備をする」という力は育っていきません。

ですから、学習準備の基本的なポイントの一つとして、クラスがスタートしてからほとんど毎日毎時間確認しています。

下敷きを敷いているか否かを、です。

おそらく子どもたちは耳タコ状態でしょう。

今では“全員”が下敷きを敷いてノートを書くようになりました。が、それでもついつい忘れてしまうこともあります。

もちろん人間ですから、忘れることはあって当然です。

でも、50回も100回も言われて忘れ続けているとしたならば、何らかの「対策」が必要になるでしょう。

ですから、クラスでは次のことも併せて伝えるようにしています。

「どうしたらできるようになるか、自分で作戦を立ててごらん。」

もちろん、作戦を立てても中々できない難しいことには言いません。

まずは下敷きのような、自分の心がけ次第で簡単にクリアできる場合においてのみ、上のように伝えています。

この「作戦を立てる」というのは、学校生活のいろんな場面で使えます。

テストで、似たような問題を続けて間違えた時。

学習道具や提出物など、同じ忘れ物が続いた時。

そんな時、毎回何も考えずに取り組むのではなくて、一度ゆっくりどのようになればいいのか自分で考えてみましょう。

教室では、その都度「こうしたらいいよ」というやり方も伝えています。

が、一番価値があるのは、やはりそのやり方を自分で見つけることです。

誰かに言われてするよりも、自分で考え、試してみたことの方が得られることはずっとずっと大きいからです。

まもなく 2023 年も終わり。

隙間時間に、そのことをイメージしやすいように一つの話をする予定です。羽生善治棋士の話です。

羽生善治といえば、最強棋士との呼び声も高いプロ棋士です。

1 つのタイトルを取るだけでも超一流と呼ばれる世界の中で、7 つ全てのタイトルを取ったことがあるほどの腕前の人物です。

どんな話をするのか、以前に書いた 6 年生向けの学級通信から中身を引用します。

みんなは、どんな感想をもつでしょうか。

「一流」や「二流」という言葉を聞いたことがあるだろうか。

人によってその解釈はまちまちだろう。

今まで出会ったほんの中で、一番わかりやすくその違いを指摘していた一冊の本がある。

著者は、羽生善治氏。

氏は、著書の中で次のように語った。

**三流は人の話を聞かない。**

**二流は人の話を聞く。**

**一流は人の話を聞いて実行する。**

ポイントは、2 つあると思った。

一つは、「素直さ」である。

三流は、そもそも聞こうとしていない。

二流は、人の話を聞いても実行しない。

つまり、何も変えないでいようとする「頑固さ」がある。

「素直さ」がないのだ。

どんなにいい話や教えに出会ったとしても、それでは成長できるはずもないことは想像に難くない。

第二のポイントは、「実行力」である。

実際の行動に起こすという点こそが、大きな分かれ目なのだろう。

うまくいくかどうかはわからない。

けれど、まずは試しにやってみる。

素直さに加え、このフットワークの軽さもまた人の成長の上で重要な条件なのだろう。

さらに、羽生善治の話にはもう一行、続きがあった。

これだ。

## 超一流は人の話を聞いて工夫する。

実際に行動を起こしてもうまくいかないことがある。

むしろ、そっちの方がずっと多いだろう。

それでも、何とか成し遂げようとして工夫する「意志の強さ」が超一流にはあるのだと思う。

「素直さ」。

「実行力」。

「意志の強さ」。

これらは全て、心の力である。

一流か否かというのは、能力の差でなく心の差なのだなぁと教えられた思いがした。

少し、堅い話が続いてしまいましたね、すいません。

ご家庭で、上手に補足していただければ幸いです。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

